

令和 3 年度

運営に関する計画

最終評価



大阪市立鶴見小学校

大阪市立鶴見小学校 令和3年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

【現状】

- 大阪市教育基本計画に基づき、学校経営方針を「自ら学ぶ意欲を持ち、主体的に探究できる子どもを育てる」と設定し、自己発揮・自己変容のある教育活動を推進している。
- 異学年集団で活動を行うキッズファミリーの取り組みを継続することが、子ども一人一人が自分のもつている力を発揮し、それが思いやりの心を育てるにつながっている。
- 子どもが安心して成長できる安全な社会の実現のため、本年度より教科化となる道徳教育の充実を図る。

【課題】

- 本校の子どもは大変素直であるが、読む力・書く力・表現する力に課題がみられ、自分の思いや考えをうまく表現できない傾向がある。それは、全国学力・学習調査の結果(習得のA問題はよいが、活用のB問題には課題がある)にも見られ、言語活動の充実と習熟度別学習やT.T.を活用した授業づくりを推進する必要がある。
- I C T (Information Communication Technology)を活用した教育活動の取組については、大型液晶テレビの各教室への導入、タブレット、パソコンなどの活用をさらに深め、取り組みを進める必要がある。
- 若手教員の増加により、「アクティブラーニング」など対話的学習の手法を研究し、教員が魅力ある授業の展開を進める必要がある。
- 英語学習の全学年での導入に伴い、校内で共通して取り組む時間を設け、英語に常に親しんでいく環境を整えていく。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】

- 平成32年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を100%にする。
- 平成32年度の小学校学力経年調査や校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）と答える割合を95%以上にする。
- 平成32年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害の子どもの割合を0にする。
- 平成32年度末の校内調査において、新たに不登校になる子どもの割合を0にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 平成32年度の小学校経年調査における標準化得点（標準化得点とは、各年度の調査の本市の平均正答数が、それぞれ100となるよう標準化した得点のこと）を、平成28年度より5ポイント向上させる。
- 平成32年度の小学校経年調査における正答率54%以下の子どもを同一の母集団で比較し、平成28年度より8ポイント減少させる。
- 平成32年度の小学校経年調査における活用に関する問題の正答率8割以上の子どもの割合を同一の母集団で比較し、平成28年度より8ポイント向上させる。
- 平成32年度の小学校経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する子どもの割合を、平成28年度より8ポイント向上させる。
- 平成32年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である20mシャトルランの平均記録を、平成28年度より1.6ポイント向上させる。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】

全市共通目標

- (A) 令和3年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。
- (B) 令和3年度小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を95%以上にする。
- (C) 令和3年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。
- (D) 令和3年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。

学校の年度目標

- (A) 令和3年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を100%にする。
- (B) 令和3年度小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の質問に対して、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と回答する児童の割合を95%以上にする。
- (C) 令和3年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を0にする。
- (D) 令和3年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を0%にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標

- (E) 令和3年度小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- (F) 令和3年度小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。
- (G) 令和3年度小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。
- (H) 令和3年度小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」の質問に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。
- (I) 令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、特に課題である長座体前屈の平均の記録を、前年度より向上させる。

学校の年度目標

- (E) 令和3年度小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- (F) 令和3年度小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。
- (G) 令和3年度小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。
- (H) 令和3年度小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」の質問に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より1ポイント増加させる。
- (I) 令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、特に課題である長座体前屈の平均の記録を、前年度より向上させる。

3 本年度の自己評価結果の総括

年度目標 (達成状況)	区分	年度目標の達成状況 および 結果と分析	進捗 状況
現 子どもが安心して成長できる安全な学校の実	安全で安心できる学校、教育環境の実現	児童の情報交換を月2回実施し、児童の置かれている状況や課題について教職員で共通理解し、学校全体で支援することができた。	B
	安全で安心できる学校、教育環境の実現	コロナ禍で、児童朝会が月2回となったが、各教室で月目標の振り返りを行うことができた。また、新たな取組として児童会を中心として、強化週間を設けることができ、定着を図ることができた。	B
	道徳心・社会性の育成	体験的な活動を計画していたが、コロナ禍により実施できないことが多くあった。しかし、工夫しながら日常のさまざまな場面で体験的な活動を取り入れられ、児童の人間性を豊かにする取組をすすめることができた。	B
	道徳心・社会性の育成	特別支援教育、人権教育に関する校内研修会を学期に1回実施し、児童に対する適切な支援につなげることができた。	B
力・体力の向上 心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学	子ども一人一人の状況に応じた学力向上への取組	指標通りに取組を行うことができた。学習の予習や復習だけではなく、興味を持った事柄を一人一台パソコンを使って調べてまとめるなど、より意欲的に取り組む児童もいた。	B
	子ども一人一人の状況に応じた学力向上への取組	指標通りに取り組むことができた。検討を行うことで、児童の実態や単元に応じて指導方法を変えたり、教材を作成したりすることができた。	B
	子ども一人一人の状況に応じた学力向上への取組	計画通りに行うことができた。学力向上支援員の指導もあり授業力の向上につながった。学んだことを個々の教育活動にいかすことができた。	B
	国際社会において生き抜く力の育成	指標以上に一人一台パソコンを使用した学習を行うことができた。特に国語や社会での調べ学習では活用できている。またパソコンを利用し、欠席した児童の学習保障を学年に応じた形でとり行うことができた。	A
	健康や体力を保持増進する力の育成	運動委員会を中心に1、2学期にはストレッチを意識するクイズの実施、ポスターでの啓発、3学期には全学年で週1回のストレッチ体操を行うことでストレッチの意識の高まりにつながった。	B

大阪市立鶴見小学校 令和3年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標</p> <p>(A) 令和3年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。 100%</p> <p>(B) 令和3年度小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を95%以上にする。 92.8%</p> <p>(C) 令和3年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。 R2 0 ⇒ R3 0</p> <p>(D) 令和3年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。 R2 0.2% ⇒ R3 0.9%</p>	
<p>学校の年度目標</p> <p>(A) 令和3年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を100%にする。 100%</p> <p>(B) 令和3年度小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を95%以上にする。 92.8%</p> <p>(C) 令和3年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を0にする。 R2 0 ⇒ R3 0</p> <p>(D) 令和3年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を0%にする。 R2 0.2% ⇒ R3 0.9%</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】	いじめを未然に防止するための取り組みを推進する。 指標 配慮をする子どもの情報交換を月 2 回実施し、「学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめ対策委員会を中心組織的に対応していく。	B
取組内容②【施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】	月目標を毎週の児童朝会で確認し、定着を図る。 指標 毎週 1 回、各教室にて目標についての振り返りを行い、児童会と連携して強化週間を設ける。	B
取組内容③【施策 2 道徳心・社会性の育成】	人・もの・こととふれ合う体験的な活動を通して、幅広い人間性を育む。 指標 コロナ禍でも工夫しながら、学期に 1 回、子どもの実態に応じた体験的な活動を実施する。	B
取組内容④【施策 2 道徳心・社会性の育成】	子どもの実態を踏まえた適切な支援を行い、一人一人の違いを認める集団を育てる。 指標 学期に 1 回校内研修会を実施し、それをもとに子どもの実態を多面的にとらえ、適切な支援を行っていく。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
<p>①児童の情報交換を月 2 回実施し、児童の置かれている状況や課題について教職員で共通理解し、学校全体で支援することができた。</p> <p>②コロナ禍で、児童朝会が月 2 回となったが、各教室で月目標の振り返りを行うことができた。また、新たな取組として児童会を中心として、強化週間を設けることができ、定着を図ることができた。</p> <p>③体験的な活動を計画していたが、コロナ禍により実施できないことが多くあった。しかし、工夫しながら日常のさまざまな場面で体験的な活動が取り入れられ、児童の人間性を豊かにする取組が進められた。</p> <p>④特別支援教育、人権教育に関する校内研修会を学期に 1 回実施し、児童に対する適切な支援につなげることができた。</p>		

次年度への改善点

- ①④月 2回情報共有を行うことができているが、コロナ禍で学校を休みがちな児童が増えている。休みになる要因は様々なことが考えられ、すべてが不登校といえない状況ではあるが、不登校児童に対する取り組みや組織化を考えていく必要がある。また、いじめや不登校などについての研修会も実施していく。
- ②コロナ禍で、従来とは生活様式が変わってきてるので、より実態に即した月目標にしていく必要がある。児童会と協力し、みんなでより良い学校生活にしていく雰囲気を作っていく。
- ③体験的な活動の意義を十分に踏まえ、これまでの工夫をもとに、より目標にせまることができる活動内容についていく。

大阪市立鶴見小学校 令和3年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】	
全市共通目標	
(E) 令和3年度小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。	
R2 3年 98.7 ⇒ R3 4年 99.6 4年 97.5 ⇒ 5年 102.5 5年 102.3 ⇒ 6年 102.3	
(F) 令和3年度小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。	
R2 3年 16.4% ⇒ R3 4年 18.3% 4年 21.3% ⇒ 5年 7.9% 5年 10.1% ⇒ 6年 8.8%	
(G) 令和3年度小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。	B
R2 3年 24.6% ⇒ R3 4年 35.0% 4年 16.4% ⇒ 5年 33.3% 5年 34.8% ⇒ 6年 33.8%	
(H) 令和3年度小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」の質問に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。	
R2 72.3% ⇒ R3 77.5%	
(I) 令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、特に課題である長座体前屈の平均の記録を、前年度より向上させる。	
R2 男子 37.47 女子 40.74 ⇒ R3 男子 33.96 女子 42.15	

学校の年度目標

(E) 令和3年度小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。

R2 3年 98.7	⇒	R3 4年 99.6
4年 97.5	⇒	5年 102.5
5年 102.3	⇒	6年 102.3

(F) 令和3年度小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。

R2 3年 16.4%	⇒	R3 4年 18.3%
4年 21.3%	⇒	5年 7.9%
5年 10.1%	⇒	6年 8.8%

(G) 令和3年度小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。

R2 3年 24.6%	⇒	R3 4年 35.0%
4年 16.4%	⇒	5年 33.3%
5年 34.8%	⇒	6年 33.8%

(H) 令和3年度小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より1ポイント増加させる。

$$\text{R2 } 72.3\% \Rightarrow \text{R3 } 77.5\%$$

(I) 令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、特に課題である長座体前屈の平均の記録を、前年度より向上させる。

$$\begin{array}{ccc} \text{R2 男子 } 37.47 & & \text{R3 男子 } 33.96 \\ & \Rightarrow & \\ \text{女子 } 40.74 & & \text{女子 } 42.15 \end{array}$$

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策5 子ども一人一人の状況に応じた学力向上への取組】 子どもが興味・関心をもちながら学習に取り組むことができる環境づくりを行う。	B
指標 学習に対しての興味・関心を少しでも高められるように、週一回自主学習ノートの点検を行う。	

<p>取組内容②【施策5 子ども一人一人の状況に応じた学力向上への取組】 個に応じた指導を充実させるために、学習時間の設定の仕方や、学習シートについて検討し、学力の向上を図る。</p>	B
<p>指標 学習内容の理解がより深まるように、学年や担当間で週に3回教材についての検討を行う。</p>	B
<p>取組内容③【施策5 子ども一人一人の状況に応じた学力向上への取組】 主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）を推進する。</p>	B
<p>指標 全教員が主体的・対話的で深い学びの視点に合った公開授業を年一回以上行う。</p>	B
<p>取組内容④【施策6 國際社会において生き抜く力の育成】 ICT機器を使用することで、情報活用能力や自己表現力の素地を養う。</p>	A
<p>指標 一人一台パソコンを活用した授業を学期に一回以上行う。</p>	B
<p>取組内容⑤【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 柔軟性が高まる運動に取り組む。</p>	B
<p>指標 運動委員会を中心にストレッチを意識できるよう啓発する。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>①指標通りに取組を行うことができた。学習の予習や復習だけではなく、興味を持った事柄を一人一台パソコンを使って調べてまとめるなど、より意欲的に取り組む児童もいた。</p> <p>②指標通りに取り組むことができた。検討を行うことで、児童の実態や単元に応じて指導方法を変えたり、教材を作成したりすることができた。</p> <p>③計画通りに行うことができた。学力向上支援員の指導もあり授業力の向上につながった。学んだことを個々の教育活動にいかすことができた。</p> <p>④指標以上に一人一台パソコンを使用した学習を行うことができた。特に国語や社会での調べ学習では活用することができている。またパソコンを利用し、欠席した児童の学習保障を学年に応じた形でとり、行うことができた。</p> <p>⑤運動委員会を中心に1、2学期にはストレッチを意識するクイズの実施、ポスターでの啓発、3学期には全学年で週1回のストレッチ体操を行うことで、ストレッチの意識の高まりにつながった。</p>	
<p>次年度への改善点</p>	
<p>①取組の開始が遅れてしまったので、四月当初から行えるようにする。学習の内容に差ができるので、助言をしたり手本を見せたりするなどの取組をより行っていく。</p>	

- ②引き続き取組を行っていく。普段のテストや学力経年調査などで得られた情報をもとに、学力向上のための教員間の意見交換をより綿密に行っていく。
- ③来年度も感染症対策を取りながら、主体的・対話的な学習をすすめ、効果的な学習ができるよう指導を工夫していく。
- ④調べ学習において一人一台パソコンの活用だけにかたよってしまい、図書を活用した学習を十分に行うことができなかつた。また教職員によって活用方法に差がでてきているので、研修やルール作りを行っていく。
- ⑤取組を早い段階から実施する。運動委員会の啓発だけでなく、各学年、各クラスで準備運動や整理運動などでストレッチを意識した運動を行うようにする。また、体を動かす機会を増やすためにも、外遊びを促す声かけも継続する。